

File.09

地銀9行 連携 レポート

「通年型マウンテンリゾート」を 目指す白馬エリアの取り組み

多様な施策を次々と打ち出す白馬観光開発(株)の事例から

山肌を色鮮やかに映し出す紅葉の時期を迎える長野県北安曇郡白馬村。岩岳山頂に建設された展望テラス「白馬マウンテンハーバー」から望む美しい白馬三山の景色を眺めていると、時間を忘れ心が癒される。この白馬エリアに新しい観光施設を次々と生み出しているのが、村内でスキー場を運営する白馬観光開発(株)である。今回は、白馬エリアの「通年型マウンテンリゾート」を目指す同社の取り組みを紹介する。

八十二銀行

外国人観光客が急増する白馬村

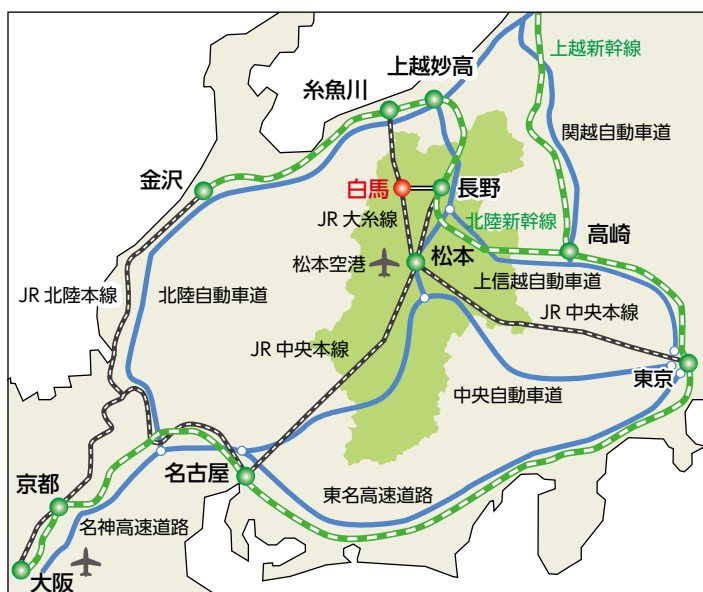
長野県北西部の北アルプス山麓に位置する白馬村(人口…8,635人※2020年8月1日時点)は、1998年の長野冬季オリンピックの会場(ジャンプやアルペン競技他)にも選ばれるなど、ウィンタースポーツの拠点として知名度が高く、多くの外国人観光客も訪れている。

外国人宿泊実態調査(白馬村)によると、2019年の白馬村の外国人延べ宿泊者数は、27万9,000人と、09年に比べ7倍近く増加している(図表1)。地域別には、オセアニアやアジアからの伸びが目立つ。

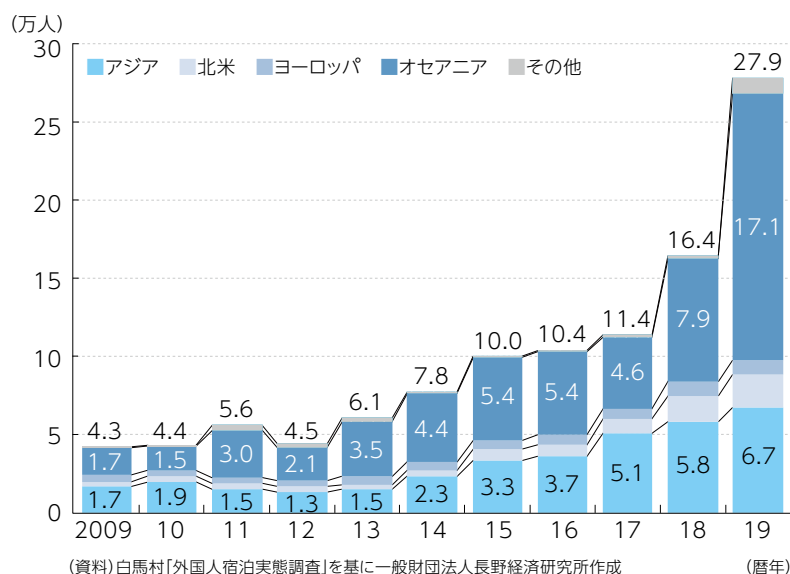
オールシーズン楽しめる 「通年型観光地」へ

外国人観光客の増加もあり、白馬村へ訪れる観光客数は年々増加しつつある。しかしながら、日本人も含めたトータルの観光客の入り込み状況を月別にみると、冬季(12月3月)と8月に集中しており、春・秋シーズンを含む年間を通じた集客が課題となっている(図表2)。

そこで、「スキーリゾートの白馬」からオールシーズン楽しめる「通年型の白馬」へ変貌を遂げるため、白馬観光開発(株)が中心となり、図表3のような各種取り組みを進めている。

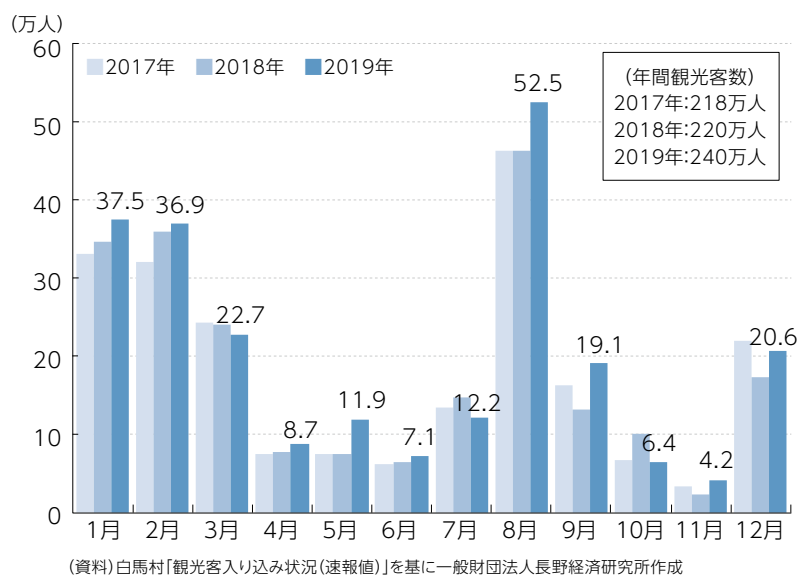


▼図表1 外国人延べ宿泊者数の推移(白馬村)



特徴的な取り組みとして、岩岳山頂エリアに、展望テラス「白馬マウンテンハーバー」を建設し、こだわりのコーヒーや地元産の白馬豚を使ったクロワッサンサンドなどを販売する全国的に有名なカフェを誘致した。また、多様なアクティビティが楽しめる「ブナの森パーク」やテレワーク環境が整う「森のオフィス」なども整備している。

▼図表2 白馬村の月別の観光客入り込み状況



一方、岩岳エリアには、空き家や廃業を考えている宿泊施設などの建屋をリノベーションし、街並み全体を一つの「高級古民家リゾート」として展開している。加えて、旧土産店を改装した「白馬ハム」工房兼直売所が19年にオープンするなど、街並みの活性化が進んでいる。



▲地元産の白馬豚を使ったクロワッサンサンド



▲展望テラス「白馬マウンテンハーバー」から望む白馬三山

新たな白馬のゲートウェイが誕生

さらに、20年5月にはアウトドアブランドの(株)スノーピークと共同で、建築家隈研吾氏のデザインによる体験型複合施設「スノーピークランドステーション白馬」がオープンした。木をふんだんに使った当施設には、スノーピークの国内最大級の直営店のほか、ミシュラン星獲得店による監修でスノーピークの飲食店舗となるレストランや大手コーヒーチェーン、白馬村観光局の案内所が入るほか、キャンプ体験エリアなどが設けられている。「白馬の新たなゲートウェイ」として多くの観光客で賑わい、当施設を拠点とした周遊ツアーの展開のほか、芝生エリアでは地元生産者が出店する「マルシェ」が開催されるなど、白馬の魅力発信を担っている。

白馬の雄大な自然、圧倒的な美しさを前面に出し、その魅力を存分に味わってもらう仕掛けづくりをすることで、世界の観光地に引けを取らない「通年型マウンテンリゾート」を目指す白馬観光開発(株)の取り組みに、今後も注目していきたい。

(文責：一般財団法人長野経済研究所 玉木壮太)

▼図表3 白馬観光開発が進める主な取り組み

地区名	取組内容
岩岳山頂 エリア	①白馬マウンテンハーバー 2018年10月に、岩岳山頂(1,289m)に白銀の北アルプスを一望できる展望テラスがオープン。テラス内には、ニューヨーク発のベーカリーショップ「THE CITY BAKERY」が出店し、地元の素材を使った「白馬豚のクロワッサンサンド」などが人気。昨年の春から秋の紅葉シーズン(19年4月27日～11月10日まで)にかけて、来場者数が約13万人になり、白馬エリアの新たな観光スポットの一つとなっている。 ②Iwatake Green Park (イワタケグリーンパーク) 19年7月、ロープアスレチックやハンモックが整備された「ブナの森パーク」、リゾートテレワークができるWi-Fi環境を備えた「森のオフィス」、ドッグランエリアなど、多様な時間を過ごせる滞在空間がオープン。また、スキー場斜面エリアには、大小のウッドデッキが整備され、キャンプチェアを利用しながら、美しいパノラマ風景を眺められる。
岩岳 エリア	①高級古民家リゾート施設「旅籠丸八」 旧旅館をリノベーションした「旅籠丸八」は、高級感のある和モダンなコンセプトを持つ高級古民家リゾート施設として、現在3棟を展開している。また、江戸時代に庄屋の屋敷として建てられた「庄屋丸八」を中心に、ダイニング機能を持つことで「泊食分離」を進め、人手不足に対応している。さらに、近隣宿泊施設とのナイトシャトルバス運行などにも取り組んでいる。 ②旧土産店を改装した「白馬ハム」工房兼直売所 19年9月、土産店だった建屋をリノベーションし、「白馬ハム」工房兼直売所としてリニューアルオープン。臭みがなく、豊かな味が特徴的な「白馬の豚」や、松川村産の酒粕を白馬生まれの子豚に与えてた「信州吟醸豚」などを使用したハムやソーセージが人気。

(資料)HP等から一般財団法人長野経済研究所作成



▲体験型複合施設「スノーピークランドステーション白馬」

日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する(今後検討される)お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ① 複数の地方銀行による資金供給(シンジケートローン・協調融資等)
- ② 他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。(個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。)
 - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。)